

# 平成 30 年度 学生教育改善会議 報告書

大阪大谷大学 FD 部会

## I. はじめに

現在、日本の大学では、FD(ファカルティ・ディベロップメント：大学の教育内容や方法等に関する研究・研修を組織的に行い、教育改善につなげていく活動のこと)が義務付けられており、大阪大谷大学においてもさまざまな FD 活動を実施しています。基本的には、学生のみなさんによる授業評価アンケートの実施とその集計結果の考察、教員が参加するさまざまなテーマに関わる研修、ビデオ撮影した授業の自己評価を 3 つの柱としています。これらの諸活動は隔年で FD 報告書としてまとめられています。

本学では、より効果的な FD 活動を実践していくために、平成 30 年度より教職員と学生が組織する「学生教育改善会議」を設けることになりました。この会議では、各学科・専攻から選出された代表学生（学生委員）にご協力をいただいて、学生による FD 活動の検証のほか、日常的な授業や教育環境、カリキュラム等に関する意見交換を行います。平成 30 年度は、8 名の学生のみなさんの出席のもと、9 月 18 日(火) 14:30 より行い、活発な議論が行われました。

## II. 会議の内容

学生委員からの意見	教員からの回答
<p>① 授業評価アンケートによる授業改善について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アンケートの実施が授業の改善につながったと実感することはない。</li><li>・同じ授業を受けることはないので、個別の授業の改善についてはわからない。</li><li>・資料の字を大きくするなどの工夫がなされたようである。</li><li>・私語を注意する教員が多くなった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・選択肢式の質問は数字のみしか結果が得られず、改善点を見出しにくいので、自由記述欄で具体的な指摘をしてもらえると授業改善のための参考になります。</li></ul>
<p>② 授業評価アンケートの集計結果・教員からのコメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・閲覧したことがない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・学生のみなさんからのご意見に対して、教員がどのように考え改善しようとしているかを、学内の Web で公表しているので、ぜひ閲覧してください。</li></ul>

学生委員からの意見	教員からの回答
<p><b>③ 授業評価アンケートによる授業改善を促進するための方策について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートを授業の最後にとると、学生はみな簡単に済ませてしまいたいと思ってしまう。</li> <li>・回答する時間をじっくり設けたほうがよい。</li> <li>・教員から自由記述を書くようにと促すべきである。</li> <li>・学生を数人選び詳しくアンケートをとってはどうか。</li> <li>・教員がアンケートの目的（授業改善）や学生側のメリットを伝える必要がある。</li> <li>・クラブ活動や実習等による欠席のカウンターの仕方について共通理解が必要である。</li> <li>・ネットでの実施により自由な時間にじっくり回答できる。</li> <li>・授業評価アンケート以外にもネット上で要望や意見を必要に応じて書き込めるシステムがあれば良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に支障をきたすほどアンケートの実施に時間をかけることはできませんが、授業の最初に十分な回答時間を設定することが真摯な回答を得る効果的な方法ですので、実施のタイミングと時間について周知を図っていきたいと思います。</li> <li>・授業評価アンケート以外の方法でみなさんからの意見や要望を聞き取る方法について、検討していきたいと思います。</li> <li>・ネットによるアンケートの実施については、匿名性の担保、バイアス（回答の偏り）が発生する可能性、回収率の低下などの問題が想定されますが、ご意見のとおりメリットも大いにありますので、継続的に検討しているところです。</li> </ul>
<p><b>④ FD 報告書における授業評価アンケートの分析について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別の集計や分析があると良い。</li> <li>・意欲的な参加や出席率について高い数値になっているが、違和感を覚えた。自己申告であるため正確な回答になっていないのではないか。</li> <li>・学生がアンケートにまじめに取り組んでいないのではないかと感じた。</li> <li>・授業以外の学習時間が低いことが問題視されており、どう改善するかが重要である。</li> <li>・アンケートは5点法（「ふつう」という選択肢がある）だが、「ふつう」は意味がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバスにおいて授業外での学習を指示していますが、具体的な学習内容や方法を提示する必要があるかもしれません。ただ、課題をこなす学習だけでなく、自主的な学習や日常的な活動（小説や新聞を読むこと、博物館や美術館への訪問など）も、意識の持ち方次第で授業外の学習になり、それが重要だと考えます。</li> </ul>

学生委員からの意見	教員からの回答
<p>⑤ 学習活動の結果に対するフィードバックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストが添削のうえ返却されると、学習の振り返りができる。</li> <li>・成績評価だけでなく、どのような理由でその成績になったのかを知ることで、意欲的な参加を促せるのではないか。また、観点別の評価があれば自身の改善にも役立つ。</li> <li>・大学内での教員からのアドバイスやフィードバックが実習の際に役に立つ。</li> <li>・Web で成績を閲覧できるだけでなく、テストの添削結果が確認できたら良いのではないか。</li> <li>・個々にフィードバックがあるのがもっとも良いが、全体としての講評は少なくとも必要である。</li> <li>・14 週目にテストや課題発表をして、15 週目にそのフィードバックをすればいいのではないか。</li> <li>・フィードバックによってモチベーションの維持・向上、学習方法の改善につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィードバックが学習意欲の向上につながることで、学生のみなさんがフィードバックを期待しているということが理解できましたので、大学全体として、より積極的に多くの授業でフィードバックに務めるよう促していきます。</li> <li>・効果的・効率的なフィードバックの方法については、今後のFD研修などで考えていきます。</li> </ul>
<p>⑥ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職に関係する授業を1回生のときから受講できるようにしてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育職員免許状取得に必要な科目について、学科の専門性と直結している「教科に関する科目」は1回生時より開講しています。一方、「教職に関する科目」は、①難易度、②教職への動機づけ、③教育実習に行く学年を考慮したうえで、2回生以上から受講できるようにしています。</li> <li>・教員採用試験のための学習については、教職教育センターで授業や講座として開講しているものがありますので、センターを積極的に活用することを強く勧めます。</li> </ul>

学生委員からの意見	教員からの回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・語学については、教員によりテストの方法などに大きな違いがある。教員間での情報共有がなされておらず、1年次に学んでいない内容を前提として2年次の授業が行われることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、外国語については、到達目標や評価基準、教科書等の統一を図っています。授業方法やテストの方法は、教員ごとに差が生まれることもありますが、到達目標の統一によって受講することによって獲得できる能力は教員間で差が出ないように努めています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障がいのある学生に対して、授業で活用する映像に字幕をつけてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像資料の情報保障については、教員からの依頼を受け、アクセスルームにおいて文字起こしを行っており、字幕挿入にも少しずつ対応を始めているところです。しかし、現在全てに対応できておらず、周知や体制を整えていきたいと考えています。授業で困ることがあれば、まずは、教員やアクセスルームに相談してください。字幕作成ボランティアとして、多くの学生さんに手伝っていただけることを期待しています。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間社会学科において、専攻したコース以外にも履修したい授業が多くある一方、専攻したコースのなかで不要な授業の履修をしなければならない。コース制は不要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部の学科・専攻では、学生のみなさんの多様な学習ニーズに対応し、とりわけ専門性の高い複数のプログラムを用意し各自に選択してもらう目的でコース制を設けています。 人間社会学科では、「人と社会」に関する4つの研究領域をコースとして設置し、いずれの科目も、その領域を学ぶ上で重要であることから設定しています。学科に4つのコースを設置されている意義・目的について再度確認し、設置する科目のシラバスを読み込む事で、人と社会について更なる探求へとつなげていきましょう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育専攻で希望通りにコースが選択できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育専攻の3コースは実践的・体験的授業が中心で、学外施設を利用することも多いので、残念ながら、定員40名を越えて受け入れることはできません。しかし、例年9割以上の学生が第一希望のコースに入り、すべての学生が第二希望までに入っています。希望が多かった場合、今までは抽選によって決定していましたが、2019年度入学生からは、1回生の保育関連科目4科目の成績（平均）順にコース選択がなされることになっています。定員の設定は、みなさんの教育の質を維持するためであることをご理解下さい。</li> </ul>

学生委員からの意見	教員からの回答
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室が受講者でいっぱいになり、座れなかったこともある。座席に余裕のある状態で受講したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定より受講者が多い授業があった場合には、教室を変更しています。ただ、200名以上が収容できる教室には限りがある一方、受講者が着席できない授業があるのは大きな問題ですので、改善策を検討したいと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設の使用許可の手続きを簡素化できないか。実技の練習をしたくてもできないことが多々ある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設の使用について不便に感じるのは、事故のないように万全の管理体制をとっているためであることを理解してください。ただし、自主的な学習や練習が可能な限り阻害されないように、現状の管理方法が適切かどうかを検証することも必要だと考えています。</li> </ul>

### III. 総括

学生教育改善会議を開催して、学生のみなさんが強い関心や問題意識を持っており、大学が取り組まなければならないことが、以下の3つに集約されることがわかりました。

#### 1. 授業評価アンケートの意義と授業改善への実効性について

授業評価アンケートが授業改善につながっているとは実感していない、あるいは実効性に懐疑的であるとの意見が多くありました。教員側にとってアンケートの結果を授業改善につなげる努力を継続していくことは当然ですが、個々の教員が実際にどのように結果を分析し改善計画を立てているかを公表していることで、学生のみなさんにそれを閲覧することを促し、教員側の考えの共有や翌年度以降の履修計画を図ってもらうことが重要であることがわかりました。

#### 2. 教員と学生の協働による授業づくり

現状の授業評価アンケートは学生のみなさんが授業全体を俯瞰して意見を出すものであり、実施時期を授業の終盤にすることには一定の意義があります。しかし、その効果を当該年度の授業で活かすことがほとんどできません。授業によってはコミュニケーションペーパーを活用するなどして日常的に意見集約をするものもありますが、全授業で行われているわけではありません。学生のみなさんと教員が、各授業の方法や特性に応じたコミュニケーションチャンネルを構築し、両者がともに働きかけ合うことにより、より良い授業を作っていくことが重要であると再認識できました。

### 3. 学習活動の成果に対するフィードバックの重要性

学生のみなさんが、単に成績の優劣だけでなく、その評価に至った理由や評価観点ごとの詳細な評価を求めていること、そして、それを知ることによって自身の学修の振り返りができ、今後の学びを立案できるとの意識を持っていることがわかりました。授業によってフィードバックの方法が異なっており、必ずしもすべての授業で学生全員が満足できるフィードバックの方法がとられていないのが現状ですが、今後のFD活動のなかでフィードバックの重要性を一つの柱にしたいと考えています。

FD活動は教員単独によるものではなく、学生と一緒に進められるものです。授業評価アンケートはそのひとつですが、それだけでは学生のみなさんにとって満足のいく授業運営が行われるわけではありません。授業改善を図るためには、①短期的には学生・教員間のコミュニケーションシステムを構築すること、②中期的には授業評価アンケートをより実効性の高いものにし、授業改善への努力を継続すること、③長期的には数年ごとに行われるカリキュラム改定に①②を最大限活用すること、これら3段階のPDCA(計画→実行→評価→改善)サイクルを組織的に行うことが重要だと考えられます。大学での学びをより良いものにするためには、大学・教員側の努力はもちろん、学生のみなさんからの力も不可欠になります。今後も一層のご協力をお願いします。

最後に、当日の会議に参加され、活発な議論をいただいた8名の学生のみなさまに、厚く御礼申し上げます。